

夢や希望を信じて生き抜く人づくり

あだち幼保小接続期カリキュラム

～幼児教育から小学校教育への滑らかな移行のために～



平成30年12月
足立区教育委員会

目次

はじめに

- | | | | |
|---|------------------------|----|---|
| 1 | 「あだち幼保小接続期カリキュラム」策定の趣旨 | …… | 1 |
| 2 | 基本設計と構成 | …… | 4 |
| 3 | 幼保小連携への活用 | …… | 7 |

基本的な生活習慣

- | | | |
|-------------|----|----|
| <生活に見通しをもつ> | …… | 8 |
| <生活を自らつくる> | …… | 10 |
| <自ら体を整える> | …… | 12 |
| <学びに向かう姿勢> | …… | 14 |

基本的な生活習慣・学びの芽生え

- | | | |
|----------|----|----|
| <健康な心と体> | …… | 16 |
|----------|----|----|

他者との関わり

- | | | |
|----------------|----|----|
| <自立心> | …… | 18 |
| <協同性> | …… | 20 |
| <道徳性・規範意識の芽生え> | …… | 22 |
| <社会生活との関わり> | …… | 24 |

学びの芽生え

- | | | |
|------------------------|----|----|
| <思考力の芽生え> | …… | 26 |
| <自然との関わり・生命尊重> | …… | 28 |
| <数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚> | …… | 30 |
| <言葉による伝え合い> | …… | 32 |
| <豊かな感性と表現> | …… | 34 |

資料

- | | | |
|---------------------------|----|----|
| 評価の観点一覧 | …… | 36 |
| あだち幼保小接続期カリキュラム検討委員会 委員名簿 | …… | 38 |

はじめに

1 「あだち幼保小接続期カリキュラム」策定の趣旨

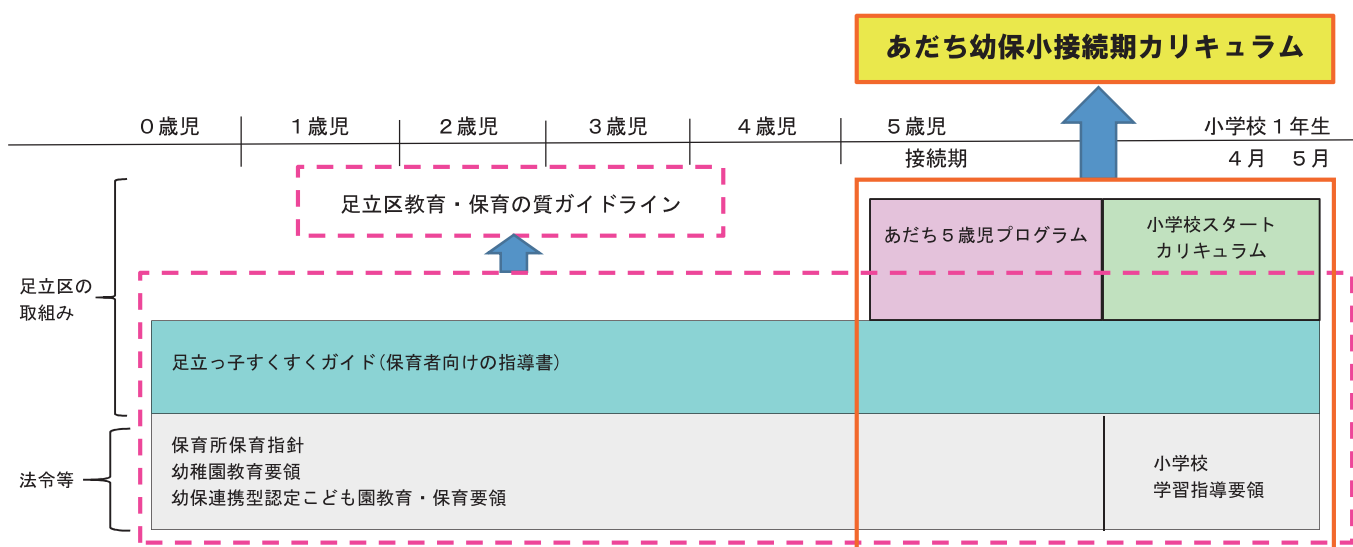
足立区は、教育大綱（平成27年度策定）で「夢や希望を信じて生き抜く人づくり」を基本理念として掲げ、乳幼児期から青少年期、成人期へと各世代で培った力を次の世代へつなげ、支えていくことを目指しています。

乳幼児期（就学前）は、人間形成の基礎を培う重要な時期です。子どもたちの「生きる力の基礎」となる資質・能力は、就学前教育・保育施設（幼稚園・認可保育所・認定こども園・認証保育所等）において、それぞれの発達の実情や興味・関心等を踏まえた遊びを通しての総合的な教育・保育の中で育まれていきます。

その資質・能力を青少年期（就学後）に滑らかに引き継ぐために、就学前教育・小学校教育に携わる保育者・教師には、子どもの姿や双方の教育・保育内容を共有し、互いの指導に生かすことが求められます。

そこで、足立区では、保育者の指導書としての「足立っ子すくすくガイド」、子どもたちが小学校で学ぶ喜びを味わうための意欲や態度を育むよう、5歳児の教育・保育に焦点を当てた「あだち5歳児プログラム」を策定するとともに、子どもたちが円滑に小学校生活をスタートできるよう、小学校入学時に焦点を当てた「小学校スタートカリキュラム」¹を活用してきました。また、区内のどの施設においても一定レベルの教育・保育を受けることができる「質」の確保のための「足立区教育・保育の質ガイドライン」を策定・活用し、教育・保育内容の充実に取り組んでいます。

【参考】足立区における教育・保育の質の確保・向上に関する施策



¹ 「小学校スタートカリキュラム」とは、足立区立小学校校長会研究委員会「教育課程委員会」が平成22年度に作成し、改訂を重ねてきたものです。

平成29年3月に改訂・改定された「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（以下「幼稚園教育要領等」）及び「小学校学習指導要領」では、これまで以上に就学前教育・保育施設と小学校の連携、円滑な接続の重要性が示されています。

具体的には、改訂・改定された幼稚園教育要領等では、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」という3つの柱から構成される資質・能力を一体的に育むこととし、幼児教育の特質を踏まえた「ねらい及び内容」が領域別（健康、人間関係、環境、言葉、表現）に示されています。また、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、育みたい資質・能力が育まれている子どもの小学校就学時の具体的な姿について「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（以下「10の姿」）」として明記されています。

一方、改訂された小学校学習指導要領では、「知識及び技能の習得」「思考力、判断力、表現力等の育成」「学びに向かう力、人間性等の涵養」という3つの柱から構成される資質・能力を偏りなく育むことが求められ、各教科の目標や内容が3つの柱を踏まえて構成されています。さらに、就学前教育・保育施設と小学校の接続を図るために、「10の姿」を踏まえた指導を工夫することにより、幼児期の教育・保育を通して育まれた資質・能力を考慮した教育活動を実施することが求められています。

このことにより、幼稚園・認可保育所・認定こども園・認証保育所等と小学校、さらには中学校、高等学校まで、縦のつながりを見通すことができるようになりました。

足立区では、教育大綱の策定や幼稚園教育要領等及び小学校学習指導要領の改訂・改定を踏まえ、乳幼児期の教育・保育のさらなる充実や、幼児教育と小学校教育の接続の一層の強化を図るため、有識者、保護者代表、小学校長、公私立の就学前教育・保育施設長で構成される「あだち幼保小接続期カリキュラム検討委員会（以下「検討委員会」）」を設置し、「あだち5歳児プログラム」と「小学校スタートカリキュラム」の見直し・一体化について検討しました。検討の結果、5歳児クラスと入学後4、5月くらいまでの子どもたちの円滑な接続のために作成された手引きがこの「あだち幼保小接続期カリキュラム」です。



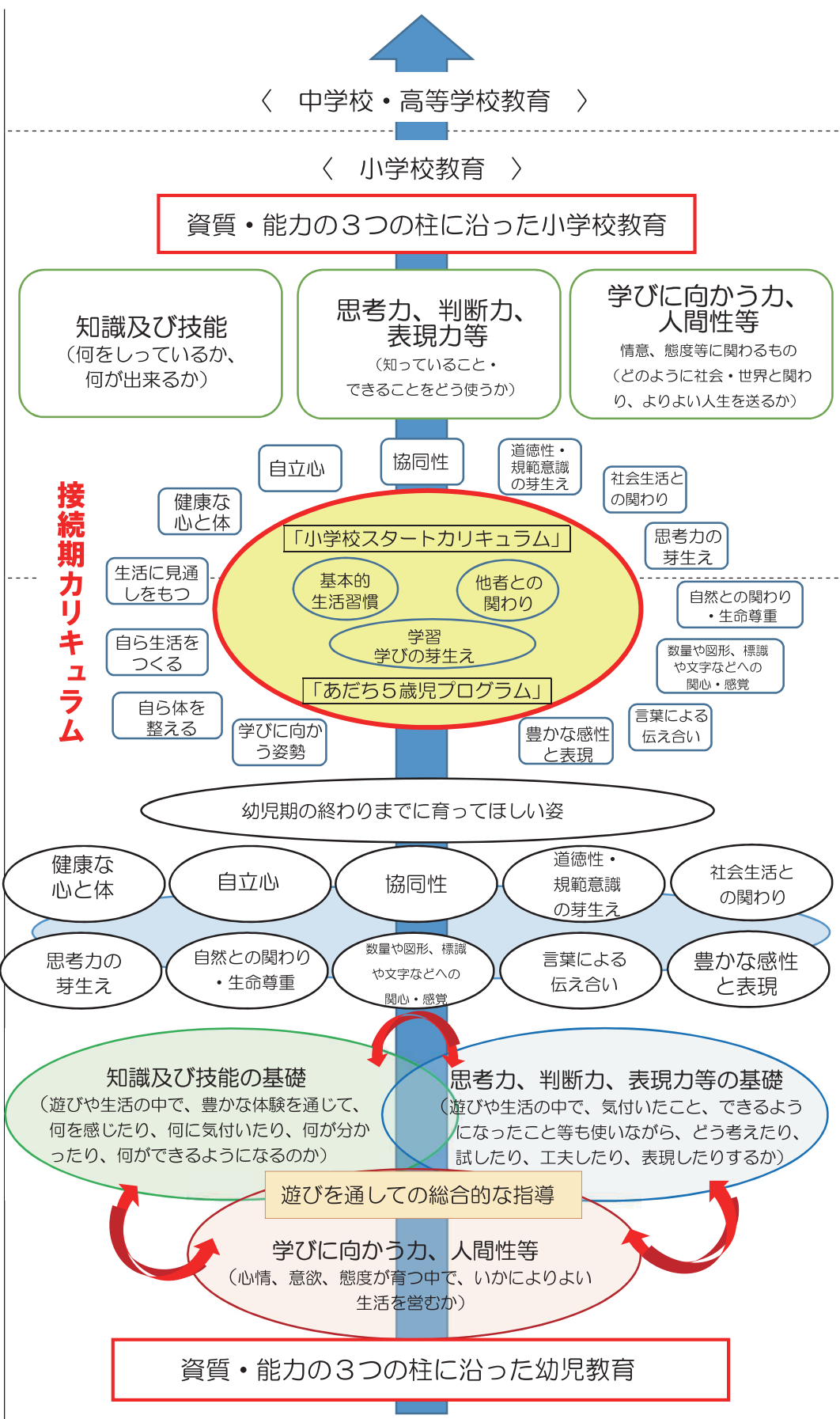
「あだち幼保小接続期カリキュラム」の位置付けについては次ページ参照

【参考】「あだち幼保小接続期カリキュラム」の位置付け

足立区教育大綱の
基本理念
夢や希望を信じて
生き抜く人づくり

6歳から
自立する力を培う 青少年期
6歳
学ぶ
旺盛な好奇心のもと、希望や意欲を持って行動し、様々な経験を重ねる中で、思いやりの心やコミュニケーション能力、基本的な知識やそれを活用できる思考力を身につける時期

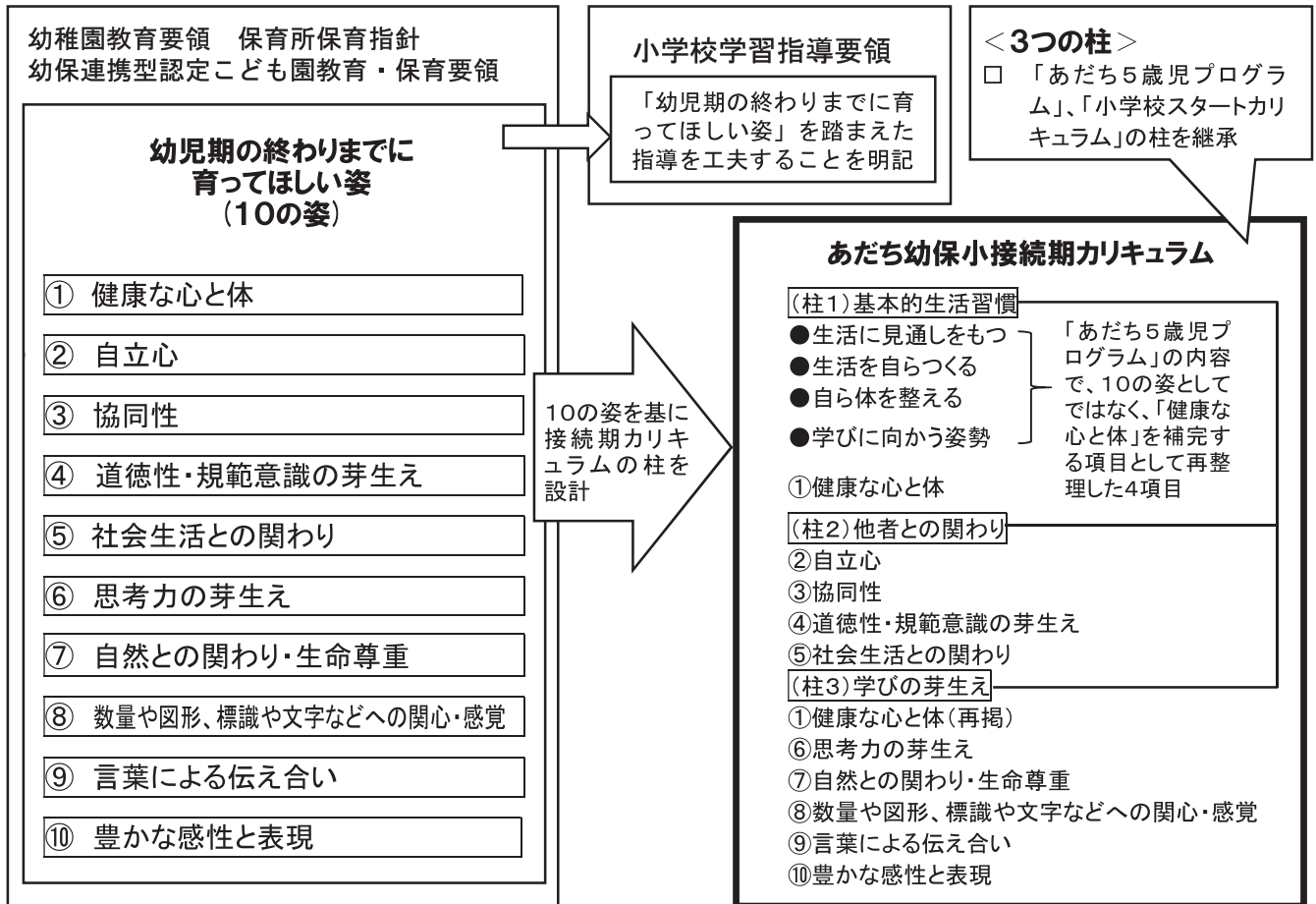
0歳から
人間形成の基礎を養う 乳幼児期
0歳
育つ
身近な大人たちからの深い愛情、様々な出会い、かわりあいを通して、子どもたちが自己肯定感を培う時期



2 基本設計と構成

「あだち幼保小接続期カリキュラム」は、「あだち5歳児プログラム」と「小学校スタートカリキュラム」を統合し、「足立区教育・保育の質ガイドライン」との整合性を図りながら、幼稚園教育要領等及び小学校学習指導要領の改訂・改定内容等²を踏まえて再構成したものです。

【参考】「あだち幼保小接続期カリキュラム」の基本設計



5歳児の移行期と小学校入学後の児童に焦点を当てて、保育者・教師が互いの教育・保育の内容や、子どもたちの発達と学びを理解し合い、双方の指導に活かすことができるよう作成しています。

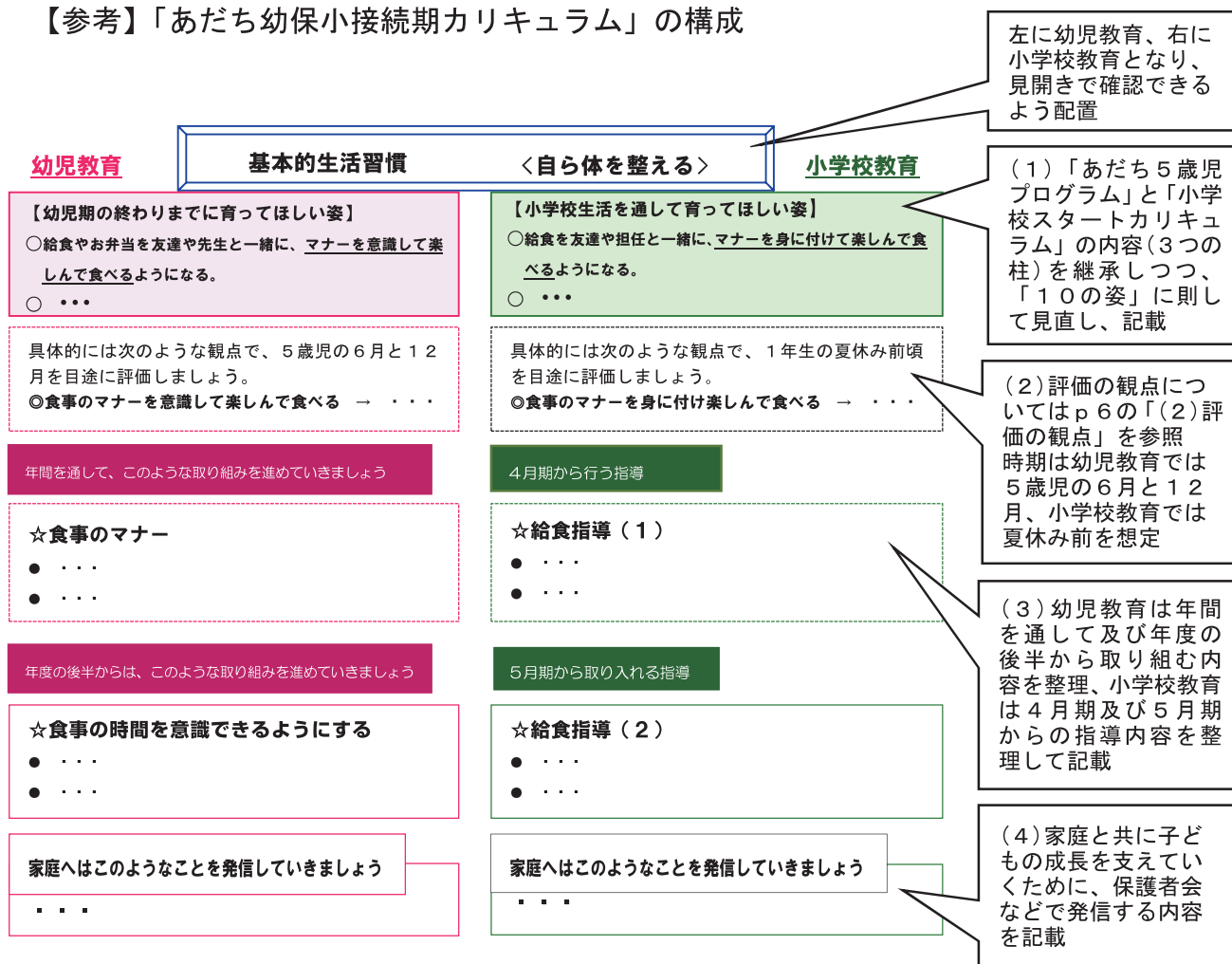
具体的には、「あだち5歳児プログラム」と「小学校スタートカリキュラム」の基本的な枠組みを引き継ぎ、「基本的な生活習慣」「他者との関わり」「学習・学びの芽生え」の3つを引き続き柱として位置付けています。

² 足立区「子どもの健康・生活実態調査」の結果等についても盛り込んでいます。

さらに、この3つの柱は、「あだち5歳児プログラム」と「小学校スタートカリキュラム」の内容を「10の姿」の枠組みに沿って分類・整理した10項目と、「10の姿」の中の「健康な心と体」を補完する内容を整理した4項目の合計14項目で構成しています。

1項目当たり2ページで構成し、左ページに幼児教育、右ページに小学校教育について記載し、見開きで接続の流れを確認できるようにしました。是非、幼児教育と小学校教育を比較しながら、その接続を意識してご活用ください。

【参考】「あだち幼保小接続期カリキュラム」の構成



以下、個別の内容ごとに説明します。

(1) 育ってほしい姿

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】と【小学校生活を通して育ってほしい姿】については、「あだち5歳児プログラム」と「小学校スタートカリキュラム」の内容を継承しつつ、「10の姿」に則して見直しました。就学前と就学後の育ってほしい子どもの姿が対になるように記載してあります。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】は、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼児教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿であり、保育者が適切に関わることで、特に5歳児クラス後半の生活で見られるようになる姿です。

ただし【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】は到達すべき目標ではなく、個別に取り出されて指導されるものでもないことには留意が必要です。何より、幼児教育は環境を通して行うものであり、子どもの自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特성에応じてこれらの姿が育っていくものです。また、全ての子どもに同じように見られるものでもありません。

【小学校生活を通して育ってほしい姿】は接続期だけに特化して育つ姿ではなく、小学校生活全体を見据えて育つ姿として捉えています。

(2) 評価の観点

「あだち5歳児プログラム」では、「指標」を設定し、「評価時の考え方」を合わせて示すことで、子どもの育ちの見取りに活用していました³。

「あだち幼保小接続期カリキュラム」では、各ページで示した【育ってほしい姿】に関する保育者・教師の理解を助け、個々の子どもの育ちの状況の把握に資するよう、「あだち5歳児プログラム」での「指標」に関する基本的な考え方を引き継いで、幼児教育と小学校教育の接続を意識した形で「評価の観点」を示しています。【育ってほしい姿】のうち「評価の観点」に関係する部分に下線を引いています。評価の時期としては幼児教育では5歳児クラスの6月と12月、小学校教育では夏休み前を想定しています。

なお、幼児教育の「評価の観点」に関しては、(1)で述べた通り、【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】は到達すべき目標ではないことを踏まえて活用する必要があります。一方、小学校教育の「評価の観点」は、小学校学習指導要領で定める「学習評価」への移行を意識して記載しています。引き続き、保育者と教師とで幼保小連携に関する議論の中で、円滑な接続の実現に努めていく必要があります。

さらに取り組みを進めて、個々の子どもの育ちの状況をよりきめ細かく把握する観点から、「あだち幼保小接続期カリキュラム」の各項目で示した「評価の観点」に加えて、各園・学校の実情を踏まえた「評価の観点」を作成し、両方を活用していくことも考えられます。

(3) 取り組み内容

【育ってほしい姿】に合わせて取り組み内容を具体的に記載しました⁴。幼児教育では年間を通して取り組む内容と年度の後半から取り組む内容を整理し、小学校教育で

³ 「小学校スタートカリキュラム」では、指標等の設定は行っていません。

⁴ 5歳児の移行期の子どもの姿は5歳になった時に突然みられるものではなく、0歳児からの育ちの連続性の中で育まれていくものです。それぞれの時期の子どもの発達の特徴、発達に必要な経験内容、教育・保育の重点等については「足立っ子すくすくガイド」を参照してください。

は入学直後の4月期から行う指導内容と5月期から取り入れる指導内容を整理して記載しました。

5歳児クラスの接続期の取り組みで培われた子どもたちの資質・能力が、入学後に滑らかに引き継がれることや、子どもたちの不安が少しでも軽減され、期待をもって小学校での学びに臨めるような指導内容となることを願って見直しました。

(4) 家庭への発信

家庭で取り組んでいただきたいことについて、保護者会やお便り等での発信に活用することで、家庭と共に子どもたちの成長を支えていけるよう、各ページの末尾に記載しています。

3 幼保小連携への活用

「あだち幼保小接続期カリキュラム」の検討過程では、検討委員会で幼児教育と小学校教育の接続や幼保小連携の在り方について様々な議論が交わされました。活動への取り組み姿勢や心の動きを読み取り、内面理解をめざす幼児の評価から、学習指導要領が示す内容が一人一人の子どもに確実に身に付いているのかを評価する学習評価への移行にあたっての保育者と教師の連携の在り方など、多くの課題が改めて浮き彫りとなりました。

保育者・教師の方々には、是非、各項目に記載された内容について、子どもたちの姿と重ねながら接続期における育ちの連続性や変化を共有するとともに、日々の教育・保育をどのように変えていくべきなのか、幼保小連携ブロック会議などの場を通じて幼保小の垣根を越えた議論を活発化させ、連携を深化させるためにご活用ください。

平成30年12月
足立区教育委員会

幼児教育

基本的生活習慣

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 早寝早起き、朝ごはんをとる習慣を身に付け、親子で時間を守って登園するようになる。
- 生活や活動を進める中で、自分のすることが分かり、見通しをもったり、周囲の状況を判断して行動したりするようになる。
- 遊びや生活の中で保育者や友達と触れ合い、安定感をもって行動するようになる。



具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- ◎見通しをもって行動する → 見通しをもって生活する中で、自ら片付けをしたりトイレに行ったりしている。

年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆決められた時間に登園する

- ・1日の園生活を気持ちよくスタートさせ、クラスの一員として楽しく過ごすために、決められた時間に登園できるようにしましょう。
- ・生活や遊びの中で、早寝早起きをすることや、朝食をとることの大切さを知らせましょう。

☆生活の流れを予測して行動する

- ・個の活動や集団活動など、見通しをもって生活できるように、集団での活動の前や、活動と活動の間に、トイレ、水飲み、手洗い、うがいなどを自発的に済ませられるようにしましょう。
- ・様々な活動について、開始前にどの程度（どのくらいの時間）行うのか予告して、区切りを意識させましょう。また、終了前にはまもなく終了することを予告して、自ら活動を終えて、後始末ができるように意識付けましょう。

☆みんなで集う楽しさの体験を積み重ねる

- ・クラスのみんで集う機会をつくる際には、集う時間やタイミングについて、子どもの姿やクラスの状態を見て考えましょう。
- ・歌、クイズ、読み語り、言葉遊びなどを取り入れ、楽しさをみんなで共有する経験を積み重ねられるようにしましょう。
- ・その日の遊びや生活を振り返り、感じたことや考えたことについて言葉で伝えたり、友達の話を聞いたりして、翌日の活動に期待がもてるようにしましょう。



年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆見通しをもって自ら行動する

- ・クラスのみんで集い話し合う中で、翌日の活動を楽しみに期待をもったり、友達の気付きを共有したり、活動内容を確認したりできるようにしていきましょう。
- ・クラス全体で活動する時間や個人・グループで活動する時間など、意図的に活動時間を構成し、気持ちを切り替えて、それぞれの活動に集中できる習慣が身に付くようにしていきましょう。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・早寝早起きの生活リズムを整え、朝食をとって9時までに登園するなど、4月以降の小学校での生活に順応できるよう準備しましょう。
- ・安全な通学への準備を行い、学校への親しみや期待をもつことができるよう、親子で通学路を歩く経験をしましょう。

<生活に見通しをもつ>

小学校教育

【小学校生活を通して育てほしい姿】

- 早寝早起き、朝ごはんをとる習慣を身に付け、安全に注意しながら、寄り道せずに登下校するようになる。
- 生活時程に慣れ、見通しをもって、チャイムの合図で次の活動に移行するための準備を整えるようになる。
- 担任や友達と関わりつつ、1日の生活リズムを意識して行動するようになる。



具体的には次のような観点で、1年生の夏休み前頃を目途に評価しましょう。

- ◎見通しをもって行動する → 休み時間に、排泄、水飲み、次の時間の準備など、時程を意識することができる。

4月期から行う指導

☆安全に登下校する（1）

- ・登校時、通学路は生活指導部、学校組織で安全管理を行い、担任は教室で子どもを迎える。
- ・登校を渋っている子どもや不安を示している子どもを把握し、気になる子どもは保護者と連絡を取り合う。
- ・下校の準備のための時間は余裕をもち、交通安全の約束を確認する。集団下校時などに教職員が危険個所を伝えたり、横断の仕方の手本を示したりして安全に登下校できるように指導する。
- ・子どもの安心・安全の観点から、登下校の見守りを地域の方の協力を得て共に行えるようにする。

☆1日の生活リズムをつくる

- ・見通しをもって生活できるよう、1日の時間の流れや朝の支度の手順などを視覚的に理解できるように掲示するなど工夫する。
- ・朝の時間に読み聞かせや体を動かすゲームなど、幼児期に親しんだ活動を取り入れて、安心して1日がスタートできるようにする。
- ・休み時間に必要なこと（次時の学習の準備、トイレ、水飲み、手洗い、うがいなど）を済ませるよう指導し、チャイムを意識して行動できるようにする。
- ・担任は、中休みには外遊びを上級生と一緒に言いながら、子どもの様子を見る。

5月期から取り入れる指導

☆安全に登下校する（2）

- ・学級活動や交通安全教室などを通して、道路の歩き方や交通マナーについて指導する。
- ・安全に注意しながら、一人または子ども同士の小集団で寄り道をせずに登下校するよう指導する。

☆見通しをもって行動・生活する

- ・チャイムの意味を理解し、次の活動に移行する準備を整えられるよう声掛けをする。
- ・担任の指示がなくても、休み時間に必要なことを済ませる習慣を身に付けるようにする。
- ・休み時間と授業時間、給食などの小学校の時程について、気持ちを切り替えながら、少しずつ合わせて生活できるようにする。
- ・子どもが自分から次の活動の準備ができるように、時間割やその日の予定などについて分かりやすく示す。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・早寝早起きの生活リズムを整え、余裕をもって登校できるようにしましょう。
- ・通学路の歩き方や危険個所について親子で確認しましょう。
- ・時間を意識させて生活（または行動）することを日頃から心がけましょう。

幼児教育

基本的生活習慣

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 使った遊具や用具を元の場所へ片付け、身の回りの物を大切に扱うようになる。
- 自分の持ち物に愛着をもち、所定の場所に自分でしまい、整理するようになる。
- ハンカチやティッシュなどは自分で携帯し必要に応じて使用するようになる。
- 次の活動に興味をもち、靴の脱ぎ履き、洋服の脱ぎ着などを自らすすんで行うようになる。
- 保育室の清掃を友達や保育者と一緒に行うようになる。



具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- ◎自分の持ち物を整理する → 自分の持ち物を大切に扱い、ロッカーや道具箱の中を整理している。

年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆持ち物の管理

- ・保育者が持ち物やロッカーをきちんと整理しているか確認を行い、整理の仕方を教えたり、子どもと共に考えたりしていきましょう。はじめは保育者の言葉かけに応じて整えようと行動しますが、徐々に自分で考えて整えられるようになることが大切です。タイミングを捉えて、一斉指導と個別指導を効果的に進めましょう。
- ・徐々に、はさみ、クレヨン、カラー帽子など、保育者が管理するものを減らし、子どもが自分の物として大切に扱うものを増やしていきましょう。
- ・ハンカチやティッシュを自分で携帯し、用途に合わせた使い方ができるようにしましょう。

☆靴の脱ぎ履きや衣服の脱ぎ着

- ・小学校では、靴箱の前でみんなが床に座り込んで靴の脱ぎ履きをすると、順番の待ち時間が生じ、集団で移動することが難しくなったり、通行の妨げになったりすることがあります。靴の脱ぎ履きはできるだけ立ったままできるように、個人差を考慮し、毎日の生活の中で習慣付くようにしましょう。また、脱いだ靴を揃えたり、靴箱に入れたりする習慣も併せて身に付けられるようにしましょう。
- ・衣服を脱ぎ着する、脱いだ服をたたむなどについて、自ら進んでできるようにしましょう。

☆清掃の仕方

- ・みんなで使う場所をきれいにすることで、心地よさを味わい、自分から生活の場を整えていこうとする気持ちを育てましょう。
- ・布巾や雑巾を洗ったり絞ったりする経験やほうきの使い方を知る経験も大切です。

年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆持ち物の管理②

- ・傘について、日々の生活や雨の日の園庭散策などを通して、水を切る、たたんで留めるなどの扱いに慣れ、傘立てに入れるなど、必要性を感じて一人で始末ができるようにしましょう。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・自分の物という意識がもてるよう、登降園時に自分のカバンを持つことを習慣にしましょう。
- ・衣服の脱ぎ着やたたむ、立って靴を履く、脱ぐ、揃えるなど日常の経験の積み重ねを大切にしましょう。
- ・翌日の持ち物を意識できるよう、親子で準備しましょう。

<生活を自らつくる>

小学校教育

【小学校生活を通して育てほしい姿】

- 学校や学級で使った遊具や用具を元の場所へ片付けるようになる。
- 自分の持ち物を認識し、大事に使ったり、整理したりするようになる。
- ハンカチやティッシュなどは自分で携帯し必要に応じて使用するようになる。
- 靴の脱ぎ履き、洋服の脱ぎ着などは、一定時間内で手際よく行うようになる。
- 教室清掃を友達や担任と一緒にやるようになる。



具体的には次のような観点で、1年生の夏休み前頃を目途に評価しましょう。

- ◎**自分の持ち物を整理する** → 自分の持ち物やロッカー、机の中を整理し、宿題や提出物は所定の場所に忘れずに出すことができる。

4月期から行う指導

☆身の回りの管理

- ・ランドセルから教科書やノートを出し入れし、宿題や提出物を提出することができるように、提出場所を一つ一つ確認していく。
- ・ロッカーや道具箱の整理整頓の仕方を分かりやすく示し、具体的に教える。
- ・自分の物を紛失しないために、落としたらすぐに拾ったり、戻したりすることが習慣になるようにする。
- ・ハンカチやティッシュを用途に合わせ、自らの判断で使うことができるようにする。
- ・靴の脱ぎ履きはできるだけ立ったままできるように、毎日の生活の中で習慣になるようにする。また、脱いだ靴を揃えたり、靴箱に入れたりする習慣も併せて身に付けるようにする。
- ・衣服を脱ぎ着する、脱いだ服をたたむなどについて、自ら進んで一定時間内にできるように、はじめは時間に余裕をもって行わせる。



5月期から取り入れる指導

☆清掃の仕方

- ・みんなで使う場所をきれいにすることで、心地よさを味わい、自分から生活の場を整えていこうとする気持ちを育てる。
- ・雑巾を洗ったり絞ったりする動作や、ほうきの使い方については、手本を示して身に付けられるようにする。
- ・掃除の際は、ごみ拾いに加えて、机やロッカーなどの整理についても指導する。

☆当番の仕事

- ・給食当番や掃除当番などの役割に責任をもち、時間を意識しながら行わせるために、一つ一つできたことを褒めて認めるようにする。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・起床や就寝の時間を決め、規則正しい生活を送ることができるようにしましょう。
- ・帰宅後は配付物や提出物、宿題の確認を一緒に行い、次の日の用意も一緒に行いましょう。
- ・衣服の脱ぎ着やたたむ、立って靴を履く、脱ぐ、揃えるなどは日常の経験の積み重ねが大切です。

幼児教育

基本的生活習慣

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 給食やお弁当を友達や先生と一緒に、マナーを意識して楽しんで食べるようになる。
- 箸を正しく持って食べるようになる。
- 食事の準備や片付けを友達と協力して行い、食事の終了時間を意識して食べるようになる。
- 様々な食材に興味をもち、苦手な食材も食べてみようとするようになる。
- 衣服や下着などを全部脱がずに排泄をし、身支度を整えるようになる。



具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- ◎**食事のマナーを意識して楽しんで食べる** → 友達や保育者と一緒に食べることの楽しさを味わいながら、マナーを意識して食べている。

年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆食事のマナー

- ・楽しくおいしく食事をしながら、食事のマナー（挨拶、食器を持つ・手を添える、口の中に食べ物が入っている時はしゃべらない、肘はつかないなど）が身に付くようにしましょう。
- ・食べ物や作ってくれた人への感謝の気持ちを育みましょう。

☆箸を正しく使う

- ・一人一人の状況を受け止め、個別に丁寧に、正しい箸の使い方を指導しましょう。例えば、子どもたちの好きなゲームの要素を取り入れて、大きさや材質の異なったものを箸でつまんで場所を移す競争をするなど、食事以外の場面での取り組みも工夫していきましょう。

☆体と食の関係に関心をもつ

- ・栄養士と連携して食育活動に取り組み、食物と体の関係や食材への関心を高め、食べる意欲を育てましょう。また、子どもが自分で食べられる適量に気付くようにしましょう。
- ・調理体験や野菜の栽培などを通して、食への関心をもたせていきましょう。
- ・食物アレルギーのある子どもへの配慮は重要です。

☆「歯」の健康

- ・永久歯が生えはじめる時期です。歯の役割や大切さを伝え、歯の健康への意識を高めましょう。
- ・よく噛んで食べる習慣が身に付くようにしましょう。また、食後の歯みがきを習慣にむし歯の予防に努めましょう。

☆トイレの利用

- ・活動の区切りや食事の前などに、自発的にトイレを済ます習慣が身に付くようにしましょう。
- ・衣服や下着など全部を脱がずに済ませ、身支度が整えられるように指導しましょう。
- ・小学校との交流授業や外部の施設に行く時などに和式トイレを使用する経験もしてみましょう。

年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆食事の時間を意識できるようにする

- ・食事への意欲をもち、友達や保育者と一緒に食べる楽しさを感じられるようにしましょう。
- ・子ども自身が食べられる適量を知ることができるよう言葉をかけましょう。
- ・その上で、給食の時間を意識して食べ終わられるよう、必要に応じて言葉をかけましょう。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・登園前に余裕をもって朝食をとり、毎朝排便をする習慣を付けましょう。
- ・親子で一緒に楽しく食事をしながら、箸の持ち方を意識したり、食事のマナーを身に付けたりすることができるようにしましょう。
- ・「野菜から食べる」「野菜を3食しっかり食べる」など、栄養のバランスを考え、苦手な食材も食べてみようとするよう、働きかけましょう。
- ・食後の歯みがきを習慣付け、大人が仕上げみがきをしてあげることでむし歯を予防しましょう。

<自ら体を整える>

小学校教育

【小学校生活を通して育てほしい姿】

- 給食を友達や担任と一緒に、マナーを身に付けて楽しんで食べるようになる。
- 献立に合った食具を選び、正しく持って食べることができるようになる。
- 食事の準備や片付けを友達と協力して行い、食事の終了時刻を意識して食べるようになる。
- 苦手な食材でも、食べようとする気持ちをもち、食べることができるようになる。
- 休み時間を意識して排泄をし、身支度を整えるようになる。



具体的には次のような観点で、1年生の夏休み前頃を目途に評価しましょう。

- ◎**食事のマナーを身に付けて楽しんで食べる** → 食事のマナーを守りながら、友達や担任と一緒に楽しく食べることができる。

4月期から行う指導

☆給食指導（1）

- ・おぼんの持ち方、食器の受け取り方や置き方を教える。
- ・献立に合った食具を考え、食事のマナー（食事の挨拶をしっかりとる、食具や食器は正しく持つ、音をたてて食べない、口の中に食べ物が入っている時はしゃべらない、肘はつかず正しい姿勢をとるなど）を守って食べることができるよう、手本を示しながら指導する。
- ・はじめは少なめの配膳で、足りない場合はおかわりをするようにして、自分の適量を把握させる。
- ・食物アレルギーのある子どもへの配慮に特に留意する。

☆「歯」の健康

- ・よく噛んで食べる習慣が身に付くようにする。また、むし歯の予防の観点から、食後の歯みがきが定着するよう指導する。

☆トイレの利用（1）

- ・トイレは休み時間内に行くことを意識させるとともに、トイレや手洗い場の使い方は実地で説明し、きれいに使用することができるようにする。
- ・休み時間以外にトイレに行きたくなった時は、自分で担任に伝えられるようにする。



5月期から取り入れる指導

☆給食指導（2）

- ・楽しく、おいしく友達と食べられるために、食事のマナーの大切さを伝える。
- ・食べる時間を多くとれるよう、給食準備の時間を減らすことを意識して指導する。
- ・苦手な食材も食べてみようとする気持ちを育てるため、楽しく食べる中で食物と体の関係を話題にする。

☆トイレの利用（2）

- ・学校生活に慣れてきた頃、休み時間中にトイレに行かなかったり、使い方が雑になったりすることがあるため、一人一人がきまりを守れるように確認する。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・登校前に余裕をもって朝食をとり、毎朝排便をする習慣を身に付けるようにしましょう。
- ・親子で一緒に楽しく食事をしながら、箸の持ち方を意識したり、マナーを身に付けたりすることができるようにしましょう。
- ・「野菜から食べる」「野菜を3食しっかり食べる」など、栄養のバランスを考え、好き嫌いをなく食べられるように励ましましょう。
- ・食後の歯みがきを習慣付け、大人が仕上げみがきをしてあげることでむし歯を予防しましょう。

幼児教育

基本的生活習慣

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 話をする人に興味をもち、集中して話を聞くようになる。
- 保育者の話を自分のこととして受け止め、自分なりに考えて行動するようになる。
- 自分のしたいことの実現に向けて、道具や素材の使い方を考えられるようになる。
- 掲示物に興味をもち、進んで見たり内容を理解したりするようになる。



具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- ◎自分のこととして受け止める → 話をする人の方を向いて、話を自分のこととして受け止めて聞き、行動している。

年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆話をしている人に興味をもって聞く

- ・手順や方法の説明は、子どもが興味をもって聞き内容が理解できるように、絵や図を活用して「聞くこと」「見ること」の活動を併せるなどの工夫をしましょう。
- ・「足を床につける」「背筋を伸ばす」など具体的に動作を示すなどし、姿勢を保つことの心地よさを知らせましょう。

☆活動に必要な用具の使い方

- ・活動に応じて必要な、はさみやクレヨン、色鉛筆、自由画帳などの道具を準備したり、様々な素材を試行錯誤しながら使ったりできるようにしましょう。
- ・子どもが必要に応じて取り出しやすく、片付けやすいように環境を整えましょう。

☆掲示物の工夫

- ・季節や社会事象（読書週間・オリンピック・宇宙飛行など）に関連した写真やカレンダー、ポスターなどを掲示しましょう。興味・関心をもって見るように情報発信の方法も工夫しましょう。
- ・伝統的な行事に関心をもち、季節や生活の変化に気付けるようにすることが大切です。

年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆説明を聞いて行動する習慣（1対多で聞き、見通しをもって自分なりに行動する）

- ・活動の前に、説明をする時間を意図的に設けましょう。内容や手順を聞いて、自ら考えながら活動を進めていく経験をする中で、話をよく聞くことの必要性が意識されていきます。
- ・説明の後に、内容や手順のポイントを聞き返して、理解しているか確認をすることも重要です。
- ・小学校との交流活動では、体験給食や学校行事への参加などを経験して、安心感や期待感が持てるようにしましょう。
- ・園からの連絡を口頭で家庭に伝えられるようにしましょう。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・親子で話をする時間をつくり、興味をもって人の話を聞く態度を、家庭でも意識して生活できるようにしましょう。
- ・掲示やプリントを通して、明日の活動や連絡事項を保護者と子どもで確認し合い、忘れ物をしない習慣が身に付くようにしましょう。

< 学びに向かう姿勢 >

小学校教育

【小学校生活を通して育てほしい姿】

- 自分の机や椅子の位置や使い方が分かり、姿勢よく座り、前を向いて教師の話を聞くようになる。
- 教師の話を自分のこととして受け止め、理解して行動するようになる。
- 教科書を使用し、興味をもって学習するようになる。
- 時間割などの教室内の掲示を見て、自分から次時や翌日の準備をするようになる。



具体的には次のような観点で、1年生の夏休み前頃を目途に評価しましょう。

- ◎自分のこととして受け止める → 前を向いて座り、教師の話を自分のこととして受け止めて聞き、行動できる。

4月期から行う指導

☆姿勢よく座り、集中して話を聞く

- ・子どもたちに話をする時は子どもの興味を捉え、分かりやすい言葉、簡潔な表現で伝える。
- ・話を聞く時は、手に何も持たずに話している人の目を見て聞くことを意識させる。
- ・机、椅子は活動に応じて、生活班で向け合せになったり、床に座ったり、机を下げて椅子だけで話を聞くなど、場を工夫する。
- ・「よい姿勢」について絵や写真などを活用しながら指導する。

☆学習に必要な用具の準備や片付け

- ・自分の机やロッカーの場所が分かるように名前シールを貼り、落ち着いて生活できるようにする。
- ・活動時間を意識しながら準備や片付けができるようにする。
- ・必要に応じて絵や写真でしまい方や片付け方を示し、自分で生活の場を整えるようにする。
- ・筆箱、教科書、ノート（下敷き）などの置き方や道具箱の整理については約束を決め、基本的な学習態度が身に付くように指導する。

☆掲示物の工夫

- ・時間割などの教室内の掲示を見て自分で学習用具が準備できるようにする。
- ・誕生日や班の紹介、係の仕事などを掲示し、学校生活に親しみをもち、楽しみになる工夫をする。

5月期から取り入れる指導

☆学習活動

- ・教科書の挿絵を拡大して黒板にはるなど、視覚的に分かりやすくする。
- ・徐々に時間割に合わせて教科書を持たせ、ノートは必要に応じて使用を開始する。
- ・ノートの使い方を知らせ、正しく使えているか一人一人確認する。
- ・「書く」活動では毎回座り方や姿勢などを問いかけ、短時間の練習を繰り返すようにする。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・机に向かう時はよい姿勢を意識できるよう言葉をかけましょう。
- ・子どもとともに時間割や連絡帳を見て翌日の学習の準備をし、忘れ物をしない習慣が身に付くようにしましょう。

幼児教育

基本的な生活習慣・学びの芽生え

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 自分の体の状態に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を送るようになる。
- 体を動かすことに興味・関心を持ち、安全についての知恵や知識を身に付けるようになる。
- 進んで遊びに参加し、自分の体を十分に動かして遊ぶようになる。
- 1日の園生活を予測したり、遊びや生活の中で時間を意識したりして、見通しをもって行動するようになる。



具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- ◎自ら進んで体を動かして遊ぼうとする → ドッジボールやリレーに参加したり、短縄や長縄などに自分のペースで挑戦したりしている。

年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆子ども自らが健康で安全な生活を送る

- ・早寝早起き、しっかり朝食をとる、歯の健康を維持するなどの、良好な生活習慣が重要であることを、生活や遊びの中で繰り返し知らせ、子ども自身が意識できるようにしましょう。
- ・乳児期からの経験の積み重ねを基に、食べ物や病気、災害などについて健康や安全に関連付けて伝えましょう。状況に合わせて「何をしたらよいのか」「どうしたらよいのか」を子ども自身が必要性を感じて判断したり、見通しをもったりして行動する機会をつくるのが大切です。
- ・危険なことや遊具の安全な扱い方など子どもと一緒に考え、子ども自身が気付けるよう提案したり助言したりしましょう。

☆様々な動きを経験する

- ・生活や遊びの中で楽しく、体のバランスをとる動き（しゃがむ・立つ・起きる・回る・組む・渡る・ぶら下がるなど）や、体を移動する動き（歩く・走る・はねる・滑る・跳ぶ・登る・はうくぐるなど）や、操作する動き（持つ・握る・運ぶ・投げる・取る・蹴るなど）の様々な動きを経験させましょう。
- ・体・脳・筋肉をバランスよく発育させ、運動の効果を高めるため、子どもの成長に合わせた運動や遊び（かけっこ、鬼遊び、ボール遊びなど）を計画的に取り入れましょう。
- ・生活や遊びの中で、小さなものをつまむ、紐を結ぶ、雑巾を絞るなどの動きを意識したものを取り入れましょう。最初は、うまくいかないことも繰り返し経験することでうまくいくようになり、それを保育者や友達にも認められる経験が自信につながります。



年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆自分なりに挑戦する

- ・ボールや短縄・長縄など、自分のペースで挑戦したり、繰り返し行ったりできる遊具や用具を常時、準備しておきましょう。挑戦に対する保育者の励ましとめあてを達成したことへの喜びが、次の意欲を生みます。

☆見通しをもって自ら行動する【再掲】

→ p 8 参照

☆見通しをもって生活する

- ・卒園に向かってしなければいけないこと、したいことなど、子どもたちで課題を見つけられるようにし、卒園までの日々の活動に見通しがもてるようにしましょう。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・毎日、元気に過ごせるように食事や睡眠を整えましょう。
- ・歩く、走る、重いものを持つ、紐を結ぶ、解く、物を揃える、たたむ、絞る、ひねるなど、体を使った様々な動作を意識した活動を経験させましょう。

<健康な心と体>

小学校教育

【小学校生活を通して育てほしい姿】

- 自分の体の状態に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を送るようになる。
- 体を動かす楽しさや心地よさを味わいながら、きまりを守って仲良く遊ぶようになる。
- 運動に積極的に取り組むようになる。
- 時間割を含めた生活の流れが分かるようになり、次の活動を考えて準備するようになる。

↓ 具体的には次のような観点で、1年生の夏休み前頃を目途に評価しましょう。

- ◎自ら進んで運動しようとする → 体育の授業や休み時間、運動会の練習などで、全力で走ったり、集団活動を楽しんだり、進んで体を動かすことに取り組める。

4月期から行う指導

☆子ども自らが健康と安全に気を付ける

- ・健康に過ごすために、食事や睡眠、排泄などの生活習慣が重要であることを生活や学習を通して知らせ、子ども自身が意識できるようにする。
- ・子どもたちの幼児期の経験を引き出しながら、子ども自身の経験からの気づきを大切にしつつ、食べ物や病気、災害などについて健康や安全に関連付けて指導する。
- ・安全に気を付けて体を動かせるように、子どもたちに遊具を使う際の注意を考えたり、ルールを作ったりさせる。

☆体を動かす楽しさや心地よさを味わう

- ・体育の授業や休み時間などに進んで体を動かせるように、校庭探検などの際に、校庭にある遊具の使い方や遊び方を知らせる。
- ・体のバランスをとる、移動する、用具を操作する、力試しをするなど、多様な動きを経験させる。
- ・きまりを守り、誰とでも仲良く遊べるように声を掛ける。



5月期から取り入れる指導

☆意欲的に運動しようとする気持ちを高める

- ・運動会の練習では、全力で走ったり、団体で動いたりする楽しさが味わえるようにする。
- ・スポーツテストでは、様々な動きを通してバランスよく体を動かすことができるようにする。
- ・安全な活動のために集団行動が必要であることを、活動を通して伝える。

☆見通しをもって行動・生活する【再掲】

→ p 9 参照

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・子どもが自分から楽しく体を動かせるように、生活リズムを整えましょう。
- ・毎日、元気に過ごせるように食事や睡眠を整えましょう。
- ・歩く、走る、重いものを持つ、紐を結ぶ、解く、物を揃える、たたむ、絞る、ひねるなど、体を使った様々な動作を意識した活動を経験させましょう。

幼児教育

他者との関わり

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 自分の力でやってみようとする気持ちをもって、難しいことにも挑戦し、考えたり工夫したりしながら、あきらめずにやり遂げ、達成感を味わうようになる。
- 失敗を乗り越えてやり遂げることで満足感を味わい、自信をもって行動するようになる。
- 自分がしなければいけないことを自覚して行動するようになる。



具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- ◎自信をもって行動する → こま回しや鉄棒、製作などに積極的に取り組み、できなくてもあきらめずに挑戦している。

年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆園生活を楽しむ

- ・保育者などとの信頼関係を基盤に、自分の力で様々な活動に取り組めるように、子どもたちと一緒に遊びの場の設定や遊具を選定するなど、子どもたちの身近な環境を整えましょう。
- ・クラス全体やグループでの活動に取り組む中で、一人一人が互いのよさを認め合ったり、励まし合ったりするよう援助しましょう。場合によってはそうした姿を仲間やクラス全体に広めましょう。子ども同士が思いやりをもったり、共感したりしながらやり遂げられるように援助しましょう。

☆自分の力で行動する

- ・友達関係が深まると、子ども同士の対立や葛藤も多くなります。子ども自身で解決にたどり着けるよう、その過程を大切にし、言動を見守りながらタイミングよく援助しましょう。
- ・子どもは、生活や遊びの中で様々なことに挑戦し、失敗をくり返す中でもあきらめずにやり遂げることで、自信をもって行動するようになります。失敗した時には、保育者はまわりの子どもたちと一緒に励ましたり、力を貸したりして、あたたかな対応をしていきましょう。

☆自分でやってみようとする気持ちをもつ

- ・「(少し難しいと思うことでも)やってみたらできた」という達成感や満足感を味わう体験(なわとび、こま回し、鉄棒、遊びに使いたいものの製作など)ができるようにしましょう。その際、一人一人の置かれている状況や発達などを理解したうえで、それぞれに適した援助のあり方を考えましょう。
- ・自分のなすべきことを自覚して行動できるように、その日やその時に必要なことなどを、どの子どもにも理解しやすいように視覚的に提示するなどの工夫をしましょう。

年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆年長者としての自覚をもつ

- ・年長児として園全体の中で担ってきた当番活動などの役割を、5歳児から4歳児に伝える場をつくりましょう。自分たちの成長を感じ、年長児としての自信や誇りにつながります。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・子どもは、相手に喜ばれたり、よくやってくれたと感謝されたりすることによって、自分が有用な人間であることを自覚します。家庭でも、仕事を分担したり手伝いをしたりするなどの経験を多くもちましょう。

<自立心>

小学校教育

【小学校生活を通して育てほしい姿】

- 自分でできることは自分でやろうと、積極的に取り組むようになる。
- 生活や学習において、失敗しても意欲をもってやり遂げ、自分に自信をもって行動するようになる。
- 生活や学習の課題を、自分のこととして受け止めるようになる。



具体的には次のような観点で、1年生の夏休み前頃を目途に評価しましょう。

- ◎**自信をもって行動する** → 自分のことは自分でしようと、試行錯誤しながら粘り強く取り組むことができる。

4月期から行う指導

☆小学校生活への期待をもつ

- ・1年生として、みんなが同じスタートラインにいることを感じ、新しい気持ちで学校生活に「ドキドキ感」や「ワクワク感」がもてるように環境を整える。
- ・挨拶、返事、持ち物の整理などの小さなことでも、自分でできたことを褒め、自己肯定感を高められるようにする。

☆自分の力で行動する

- ・「できなかった」ことが「できるようになってきた」「分かった」と思える経験を重ねられよう留意する。
- ・受け身でいるのではなく、まずは自分のことは自分で行う気持ちをもつこと、そして、困っている時は友達や担任に伝えることの必要性を知らせる。学級の一員としての自覚をもてるようにする。

5月期から取り入れる指導

☆友達との関わりを大切にする

- ・友達関係が深まると子ども同士のいざこざも多くなることから、子ども自身で解決にたどり着けるよう、その過程を大切に、言動を見守りながらタイミングよく支援する。
- ・学級全体やグループでの活動に取り組む中で、一人一人が互いのよさを認め合ったり、励まし合ったりできるように働きかける。

☆自信をもって行動する

- ・子どもは、生活や遊びの中で様々なことに挑戦し、失敗をくり返す中でもあきらめずにやり遂げることで、自信をもって行動できるようになるため、担任は、できないけれどもやってみよう、試行錯誤しながらも繰り返し取り組むといった姿を認めながら指導する。
- ・その日やその時に必要なことなどを、どの子どもにも理解しやすいように視覚的に提示するなど工夫をすることで、子どもが自分のなすべきことを自覚して行動できるようにする。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・できないことを責めるのではなく、できたことを褒めてあげましょう。
- ・「挑戦」する気持ちが育まれるよう、励ましの言葉や失敗しても大丈夫なことを伝えましょう。
- ・学校はいろいろな友達がいる中で、みんなで協力して生活する場であることを伝えましょう。

幼児教育

他者との関わり

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合うようになる。
- 自分の考えを相手に分かるように様々な方法で表現し、伝えるようになる。
- 目的に向かって、友達と協力してやり遂げる喜びを感じるようになる。
- クラスやグループの活動の中で自分の力を発揮し、互いのよさを認め合えるようになる。



具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- ◎**友達と互いに認め合う関係を築く** → 生活や遊びの中で、自分と違う友達の思いや考えに気付いたり、自分の思いを言葉で伝えたりすることを通して、友達と協力して取り組もうとしている。

年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆育ち合う関係づくり

- ・全ての子どもが、国籍や文化の違い、特別な配慮を必要とするなどの多様性を生活や遊びを通して受け止め、共に育ち合うためには、子どもが安心して生活できる環境が必要です。
- ・保育者は一人一人の子どもの発達の過程や心身の状況を把握し、個に応じた関わりと集団活動の両面を大切に、教育・保育を展開しましょう。

☆自分の気持ちを伝える（p24、p32も参照）

- ・自分の思いや考えをグループやクラスの中で、友達に分かるように話すことができるよう援助しましょう。感じたことや発見したことを自分なりに伝えようとすることや、友達の話聞き自分と違う考えがあることに気付くことが大切です。保育者の問いかけや共感的な関わりなどが子どもたちに新たな気付きを促します。
- ・思わず友達や先生に伝えたい、心を揺さぶる体験が得られる教育・保育をめざしましょう。
- ・遊びの中での力関係に留意し、一人一人が思いを出せる対等な友達関係が築けるような配慮をしましょう。

☆協力してやり遂げる

- ・グループ製作や行事での係活動、劇遊びや合奏など友達と協力して取り組む機会をつくりまします。
- ・共通の目的の達成に向け、友達と考えを出し合って、試行錯誤しながら、やり遂げた喜びや満足感を体験することが大切です。そのため、活動について、内容や集団の規模、時期、グループ構成、終了時の評価方法などを、年間を通して、意図的・計画的に構築していくことが必要です。

☆葛藤する経験をする

- ・グループやクラス全体での活動について、結果だけではなく、つまづきを乗り越えたり、繰り返し努力したりした過程の大切さに気付かせましょう。活動を通して起きた友達との対立や葛藤は大切な体験として捉えます。
- ・トラブルの解決に向けては、個別に関わるもの、クラス全体に紹介して一緒に考えるとよいものなどを区別し、どうしたら折り合えると思うか、子どもの考えを引き出しながら双方の納得へ導きましょう。

年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆友達のよさに気づき、互いに認め合う関係（p32も参照）

- ・個々のよさや得意なことがクラスの中で認め合える機会を意図的につくり、互いに刺激し合い、育ち合えるクラス集団をつくりましょう。

家庭へはこのようことを発信していきましょう

- ・年長組になって行事をリードすることが多くなります。友達と一緒に頑張った時、やり遂げた時には大いに認め、子ども自身が自分の力を発揮した喜びを感じられるようにしましょう。